

## 実践研究会を開催!

令和4年2月19日(土)第13回実践研究会を北方町ホリモク生涯学習センター会議室Aで無事行うことができました。コロナ禍で開催が危ぶまれる中、「**道徳教育を更に充実させるために!**」のテーマで行いました。発表者は、本巣市を代表して本巣中学校・森田祐基教諭、瑞穂市を代表して本田小学校・岡野咲子教諭です。それぞれの学校から清水康孝校長先生、土川恵美校長先生、谷村三奈教頭先生、森武寿先生が応援に加わってくださいました。参加者は12名と少なかったのですが、充実した内容の実践研究会となりました。

10時、**大野琴美副会長**(一色小)の温かいお人柄を感じさせる進行で始まりました。まずは、**森山政紀会長**の挨拶です。

「1つ目は公益財団法人モラロジー道徳教育財団が毎月発行している『ニューモラル』の冊子をご愛読いただくことへの感謝です。2つ目は本研究会が13回の歴史を重ねることが出来たことへの感謝です。3つ目は岐阜県道徳教育奨励協会が県内各学校の道徳教育を支援し、令和3年度の『報告書』が刊行された報告と募集への呼びかけです。4つめは第59回道徳教育研究会岐阜瑞穂会場として、**令和4年7月28日(木)**本会が運営担当になる予告と参加への呼びかけです。

岐阜もとすモラロジー事務所と協力し参加費無料で先生方に学んでいただくという計画で、講師には河合宣昌先生をお願いしております」  
続いて、参加者全員の自己紹介が和やかに進められました。



### 令和3年度 実践研究会

## ホタルリボンで広める思いやりの心 ホタルリボンでなくす差別や偏見

発表者: 本巣市立本巣中学校 森田 祐基 教諭

森田先生は、本巣中学校の人権教育推進を担う立場から、実践内容を紹介してくださいました。

「さりげなく、でもより主体的に思いやりの心を発揮出来る生徒になって欲しいとの願いから、生徒会活動を基に展開しているのが『ホタルリボン』の取組です。

着想の発端は、コロナ禍で生まれた差別や偏見を耳にした愛媛県の有志がつくった『シトラスリボン』プロジェクトです。家庭・地域・学校を結びリボンマークが運動のシンボルです。生徒会では、『自分たちの知恵と手で生徒会4本柱を誇れるものにしよう』と地元の名物ホタルから名付けました。趣旨に賛同した生徒は、その意思表示として『ホタルリボン』を身に付けたり行動に移したりします。同じ思いの仲間を確認することで、積極性を示せるようにもなりました。中学時代の特徴として『多きに付く』『不承不承で付く』付和雷同性が課題となりますが、強制的な運動ではなく、納得した者がよく考えて動くという点にこだわっています。『よいこと見つけ仲間を素敵に広める』活動から『仲間の素敵に広め、素敵に繋がる思いを考える』動きが見られるようになりました。誰もが心から暮らしやすい地域社会になるように、本巣中からの発信を工夫しようとする生徒会活動を今後も期待していきます」



# 自己の生き方についての考えを深め合う道徳の時間の在り方

発表者：瑞穂市立本田小学校 岡野 咲子 教諭

長年「共に生きる喜びをつくりだす子の育成」をテーマに掲げ道徳教育を推進している本田小学校の伝統が伝わる発表でした。

岡野先生は、特に「道徳の時間」の内容に絞って発表してくださいました。

「仲間と考えを伝え合い、変容を語らせることで『他者理解から自己理解』『確かな自己理解』へと、自分を高められる授業を



めざすことにしました。自分と異なる意見と向かい合い、議論をすることで、主体的に道徳的価値の理解を深めたり広げたりできると考えられます。『主体的』『対話的』に深い学びを促そうということです。

低学年部では、役割演技の質を高め、演技する側と見る側共に自分の考えを表出させることに努めました。例2年『すてきなえがお』。中学年部では、ペアでの意見交流を基に仲間と自分の考え方・感じ方を比較して話させるように努めました。例4年『正直五十円分』『雨のバス停留所で』。高学年部では、児童の意識に基づいた3人のグループ討議で、多面的・多角的に考え、その考えの変容を語りながら自己理解をさせるように努めました。例5年『道案内』6年『最後のおくり物』。特別支援部では、個の特性に応じた指導過程の工夫として、見る視点を明確にした役割演技、日常生活とつなぐ自己みつめ、価値と日常生活をつなぐ学級掲示に努めました。

発達段階に即した指導過程の工夫は、『気持ちを深く考えたり、新しい考え方を広げたり深めたりする』効果がありました。『考え、議論する場を設定することで、互いの考えを認め合い、道徳的価値に対する考えを深める』児童の成長を確かめることが出来ました」

動画を使って授業を紹介していただき、臨場感のある発表でした。

参加してくださった先生方からは、貴重なご質問やご感想をたくさん出していただき活発な会になりました。誠に有難うございました。



## (会場風景から)

林 明夫顧問から指導助言をいただきました。

「お二人の先生方が道徳教育の素晴らしい実践者であると感じさせてくれた発表でした。また本巢中・本田小が各々歴史的な積み重ねの上に、着実な実績を加え、家庭・地域社会の協力態勢と信頼を得ていることが分かる発表でもありました。



本巢中・森田先生の発表では、生徒の自発性を大切に取り組みられて成果をあげている様子が伝わってきました。より発展させるためには『生徒の思いやる心を満足させるには何が必要なのか』を深めたいものです。思いやりが自他の『生』を充実するということを共有したいです。本田小・岡野先生の発表では、よく考えて反応している子どもの伸びを感じました。『自己を見つめる』のは、今までどんな自分であったのかを自覚することで、『これからのため』は吟味が必要です。お二人の先生の益々のご活躍を期待しています」

神谷 肇副会長より結びの挨拶がありました。



「13年間続いてきた実践研究会への先人や仲間のご協力に感謝すると共に、本日の発表者・参加者の皆様へお礼申し上げます。今はコロナ禍で大変ですが、心遣い『感謝、思いやり、自立』を大切にしながら、明るく生きて行きましょう」と締めくくられました。

関係各位のご支援・ご尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。